déjà vuあるいは危機の構図

日本取引所自主規制法人　前常務理事
福　田　一　雄

40年ほど金融を生業としてきたからかもしれないが、最近déjà vu（既視感）に襲われることが多い。今回は、そんなdéjà vuという「視点」を主題にして、是非を問わない理屈抜きの感覚論に徹するが、最後までお付き合いいただければ幸いである。

最初に紹介するdéjà vuは、新進気鋭、新技術という神話に隠された「不都合な真実」である。新たな決済手段を謳ったワイヤーカード、サプライチェーン・ファイナンスを謳ったグリーンシル、暗号資産二大陣営と喧伝されたFTX、そのいずれもが数年間に急成長し、立て続けに破綻した。暗号資産＝暗号通貨と謳ったように、旧弊に囚われないスタートアップで新技術を駆使した気鋭の経営者の手にかかれば、とっくの昔に儲からなくなったはずの銀行機能が新ビジネスとして蘇る、と謳って投資家の資金を集めたフィンテック企業だが、いざ蓋を開けてみると、分別管理などお構いなしに関係会社や新天地での業務展開に流用され、調べてみればそこに資金はなかった！

関係会社に流出した資金がなくなる、そんな手口は古今東西で見られる古典的手法だが、そんな使い古された手口であっても、カリスマ経営者の下で、新技術による急成長という「神話」の手にかかると「不都合

©日本証券アナリスト協会　2023